

### 第3回 空港アクセス検討委員会概要

1 日時：令和3年7月15日（木）10:00～11:50

2 場所：ホテル熊本テルサ ひばり

#### 3 出席者

委員：加藤 一誠 慶應義塾大学商学部 教授  
円山 琢也 熊本大学くまもと水循環・減災研究教育センター 准教授  
岩崎 司晃 九州産交バス(株) 代表取締役社長  
赤木 由美 九州旅客鉄道(株) 執行役員 熊本支社長  
新原 昇平 熊本国際空港(株) 代表取締役社長  
川畑 健二 熊本経済同友会 都市圏戦略委員長  
西村まりこ 熊本商工会議所 副会頭  
松田 秀一 (一社)日本旅行業協会 熊本地区委員長  
高橋 太朗 熊本県企画振興部長  
村上 義幸 熊本県土木部長  
井芹 和哉 熊本市都市建設局長  
オブザーバー：小原 勝 国土交通省九州運輸局鉄道部長  
府高 隆 熊本県観光戦略部政策審議監  
熊本県：小金丸交通政策・情報局長、猪原空港アクセス整備推進室長

#### 4 議事の概要

- 県から、「令和2年度継続調査結果の概要」、「交通モード比較検討に係る調査結果の概要」について説明後、各委員から意見を聴取。（各委員からの主な発言は以下のとおり）
- 本日の議事の中で出された意見や課題への対応を、事務局で検討の上、次回の検討委員会において説明予定。（開催時期は現時点で未定）

#### 5 委員等の主な発言

##### (1) 令和2年度継続調査結果の概要について

###### 高橋委員（熊本県企画振興部長）

- ・6月議会における一般質問への知事答弁内容について説明（収支採算性、B/C、航空旅客622万人の目標、新広域道路交通計画との関係、今後の課題について）

###### 円山委員（熊本大学准教授）

- ・今回の需要予測結果については、過大評価にも過小評価にもしないことを念頭において、他の専門家も含めて議論しながら算出したものであり、現時点で最善のデータと技術を利用していると自信を持って言える。
- ・需要予測では、現時点で具体的に想定されていない中間駅や空港駅付近の開発等は見込んでいないが、前提条件が変われば、数値が増減するため、その前提を変えるような議論をすることが大事。
- ・鉄道事業を行うと決定する場合は、中間駅、空港駅周辺の開発等を行うべきであり、それにより、鉄道需要の増加や収支の改善が見込むことができ

ると考える。

- ・ 中間駅は、空港まで1駅で行くことができ、また、新幹線の駅まで繋がっているため、東京からの移住者を呼び込むのに絶好のロケーション。
- ・ 空港から熊本市中心部まで2回の乗換（三里木駅、新水前寺駅）が必要なため、その抵抗を少なくすることで需要の増加・採算性の改善が期待される。

#### **新原委員（熊本国際空港㈱取締役社長）**

- ・ 航空旅客622万人の目標は、30年先の総量であり、目標を変える予定はない。
- ・ 現状では、国際線の路線誘致は難しい状況であるが、今週末にFDAの静岡便が就航するなど、まずは国内線をどのように増やしていくかを検討していく。一方で路線を継続することが、新規路線の誘致と同じくらい重要と考えている。
- ・ 国際線については、まずは現在運休している路線の復便、それから新規路線と移行していきたい。
- ・ 今後も様々な営業努力を積み重ねて、2051年622万人の目標を達成したい。

#### **赤木委員（九州旅客鉄道㈱ 執行役員熊本支社長）**

- ・ 需要予測の結果について、中間駅の需要が低目となっており、新駅周辺の開発を今後どうするかがポイントとなる。
- ・ コロナの影響により、鉄道利用客は大幅に減少した。観光や出張での利用者の回復が遅れる中で、通勤・通学の定期利用者については回復傾向にあり、定期は底堅いことを実感している。
- ・ 空港アクセス鉄道についても、今後いかに安定的な需要を増やすかが重要である。空港利用者増加も目指さないといけないが、駅周辺に住む人や、働く人（定期券を使っただけの人）を増やす必要があり、県の企業誘致についても期待している。

#### **岩崎委員（九州産交バス㈱ 代表取締役社長）**

- ・ 鉄道の効果をより高めるためには、バスを含めた運用がポイントであると考えており、総合的な空港アクセスの計画が今後必要となると考える。バスの欠点である定時性・速達性をどう改善するか、議論が必要。
- ・ アクセス鉄道利用者増加のためには、駅からのバスの運行等、他モードと連携することが必要と思われるが、そのための、ランニングコスト、財源についても検討が必要。

#### **川畑委員（熊本経済同友会 都市圏戦略委員長）**

- ・ 今回の調査結果は、令和元年度調査に比べて精度が向上しており、国庫補助の課題はあるものの、事業採算性があり、B/Cが「1」を上回っているということについては非常に意義のあることだと認識。
- ・ 鉄道の需要については、中間駅や空港駅周辺の今後の開発計画やUXプロ

- ジェクト、鉄道沿線への企業誘致により、増える見込みがある。
- ・経済波及効果で試算されている、沿線への企業進出効果について、鉄道建設による企業集積と、例えばU Xプロジェクトでの企業集積などと両方からのプラス効果に期待。

#### 西村委員（熊本商工会議所副会頭）

- ・ソニーの新工場等、半導体関連企業が今後集積すれば、アクセス鉄道の需要増加が期待できる。さらに、T SMCが進出してくることがあれば、国の補助を受けるためにもプラスに働くのではないか。
- ・働く人が増えれば鉄道沿線の住民も増え、中間駅の需要はさらに増えることだろう。
- ・空港には、早朝・夜間の増便をお願いしたい。地域の活性化と併せて空港を利用することができる時間が多くなれば、その分アクセス鉄道にもプラスの効果が働くだろう。

#### 松田委員（(一社)日本旅行業協会 熊本地区委員長）

- ・熊本県の観光の魅力をさらにアップすることで、誘客を促進し、航空旅客622万人の目標に向けた路線拡大にも繋がると考える。
- ・国からの3分の1の財政支援については、ハードルが高いように感じるが、熊本ゆかりの企業や経営者による、企業版ふるさと納税を活用することを検討してはどうか。
- ・コロナにより県外への観光は厳しい現状であるが、秋・冬にはワクチンも広がり、旅行需要も回復することを見込んで、現在準備を進めている。

#### 村上委員（熊本県土木部長）

- ・物流としてはどうしても道路が必要になるが、鉄道は空港周辺のU Xプロジェクトや企業誘致が進めば、そこに通う人達の時間が読める足となることから、鉄道も同時に必要になると思っている。
- ・現時点での想定では600万という数の旅客を道路での自家用車やバスだけで対応することはできないと思っている。

#### 井芹委員（熊本市都市建設局長）

- ・公共交通機関による空港アクセス改善が熊本市内の交通渋滞の解消に繋がる。
- ・鉄道の効果を最大限発揮するには、熊本市中心市街地への二次交通の整備、利便性の向上が必要である。新水前寺駅は現状でも市電やバスへの乗換の積み残しが発生しているので、まずは乗換拠点を集中的に改善する必要がある。

#### 小原オブザーバー（国土交通省九州運輸局鉄道部長）

- ・検討委員会での議論や、調査結果等については、国土交通省鉄道局に随時情報提供を行っている。補助率の嵩上げに向けて、できる限り努力したい。

#### 府高オプザバー（熊本県観光戦略部政策審議監）

- ・今後の観光戦略部の計画においても、空港アクセス鉄道の整備を考慮した上で、国内外からの観光客促進について検討していく。
- ・鉄道の定時性・速達性については旅行客の利便性向上に寄与すると着目しており、また、大規模スポーツイベントの開催に当たっては、鉄道の大量輸送性が大いに発揮されると期待。今後誘致活動を行う際には、鉄道が整備されていることが効果的なアピールポイントとなる。
- ・予測結果を上回る需要創出が課題と思うが、観光立県推進計画を6月に策定しており、鉄道の整備を考慮して、国内外からの観光客を拡大する取り組みを進める。また、そのことが一般の交通利用者の方々の利用促進にも効果をもたらすように観光業界と連携して施策を考えていく。

#### （２）交通モード比較検討に係る調査結果の概要について

##### 高橋委員（熊本県企画振興部長）

- ・鉄道を整備しないリスクとして、2051年度に航空旅客が622万人になった際には、バス輸送として現況から約3倍の1日当たり約1万人を輸送する必要がある。バスやBRTでは、運行本数の増大に伴う運転士の確保、車両台数の増大やその維持といった大きな課題が生じることになり、増大する空港利用者に適切に対応するためには、鉄道の整備が必要である。

##### 岩崎委員（九州産交バス(株) 代表取締役社長）

- ・バスの運転士確保については、業界全体の課題である。
- ・BRTで、定時性・速達性は改善されても、大量輸送性には限界があるため、現状の3倍の輸送をバスで担うことは非常に難しく、鉄道をメインとした上で、機動性の高いバスを組み合わせるのがベターかと考える。
- ・接続バスについては、長距離の輸送には不向きであり、輸送力の面でも着席性を考慮すると、鉄道に比べて劣る。事業者目線としても、接続バス専用の整備工場やバス停の整備、走行が可能な道路の整備が必要となり、負担が大きい。

##### 井芹委員（熊本市都市建設局長）

- ・市電延伸案についても今日、県において一定の検証がされたものと考えている。
- ・熊本における空港アクセスでは、鉄道延伸が最も効果的であるということが確認されたと思っており、鉄道の利便性を向上するための検討を深めていく必要があると考えている。

##### 円山委員（熊本大学准教授）

- ・私も鉄道がベターであると考えているが、今回の資料の中で鉄道の良さが強調されすぎていないかが気になる。
- ・資料では熊本駅から空港までの時間で比較してあるが、熊本市の通町筋等からの時間を考えると鉄道が若干不利になる可能性がある。もう少し公平に比較しても鉄道が良いとわかるような整理の仕方が必要。

- ・鉄道についても、鉄道路線と繋がり、J Rパスが使えるようになる効果等、記載されていることの他にも良さがあると思うので、もう少し整理していただいた上で最終判断していく必要がある。

#### **村上委員（熊本県土木部長）**

- ・産業道路や第二空港線を通るB R Tについて、概算事業費が記載されているが、ここでは「高額補償の支障物件が多く、市街地内の施工」という一定の条件の中で整理されたものと、理解している。

#### **赤木委員（九州旅客鉄道(株) 執行役員熊本支社長）**

- ・他の交通モードと比較して、鉄道が一定の優位性があることが今回示された。
- ・ただ、円山委員と同じく、資料には記載されていない、二次交通整備の必要性や、停車する駅を増やすことが容易ではないなどの鉄道のデメリットが存在することからマイナスの部分をどう補完するかということも検討が必要。

#### **新原委員（熊本国際空港(株)取締役社長）**

- ・空港へのアクセスは現状では道路しかないため、交通手段が複数化することについて期待している。
- ・空港としては、公共交通によるアクセスがどれだけ早く整備されるかという点が非常に重要だと考えており、その点で鉄道が優れていると感じる。
- ・産業道路等に高架道路を整備する場合、整備中は既存の道路への負荷が大きくなることにも考慮する必要がある。

#### **川畑委員（熊本経済同友会 都市圏戦略委員長）**

- ・従来の道路による輸送に加え、大量輸送性が可能な鉄道が選択肢に加われば、周辺地域における道路渋滞の緩和や、大規模スポーツ大会、国際会議等の誘致も期待ができる。
- ・現状、道路だけの一本足である空港へのアクセス手段を複数にすることが大事であると考えている。

#### **西村委員（熊本商工会議所副会頭）**

- ・新原委員の意見に同感。加えて整備に要する期間だけでなく、整備に着手するまでの時間も比較して選択することが非常に大事。

#### **松田委員（(一社)日本旅行業協会 熊本地区委員長）**

- ・阿蘇くまもと空港はその名のとおり、阿蘇と熊本市内の中間地点にあることが大きな利点である。新たな観光ルートが期待されるという観点からも鉄道が優位であると感じている。

### (3) その他意見

#### 円山委員（熊本大学准教授）

- ・鉄道もインフラとして考えることが重要。道路や公園や堤防は、そもそも収入がないので赤字であるが、社会にとって必要なもの。短期的に利益が出るのであれば、民間が投資するものであり、短期的には利益が出ないが公共財として必要な事業こそ、行政が取り組む意義がある。新聞の投書等を見ると、さらなる県民理解が必要と感じるため、今後、県民への丁寧な説明と理解を深めることが大切であると考えている。
- ・福岡空港では、1,500億円をかけて滑走路を増設する計画や、470億円をかけて都市高速道路を空港へ伸ばす計画を進めており、このままではお金をかけている福岡だけが九州の中で、便利な空港となり、一極集中が進んでしまう。九州全体のポテンシャルを上げる観点からも、熊本空港の利便性向上は必要である。

#### 岩崎委員（九州産交バス(株) 代表取締役社長）

- ・災害時の対策として、機動性のあるバスについても鉄道と同じくインフラとして考えることが必要である。

#### 加藤委員長（慶応大教授）

- ・本日二つの議題について、議論いただいたが、事務局の説明、委員の意見をまとめると、まず、他モードとの比較検討においては、BRTを含めて改めて比較しても、熊本における空港アクセス改善には、鉄道延伸が最も効果的かつ実現可能性が高いと考えられる。
- ・一方で、令和2年度継続調査結果における、鉄道延伸三里木ルートについては、一定の仮定のもとでは、収支採算性やB/Cは成り立つものの、引き続き、財源の不透明さを払拭する取組みや、持続可能な経営のため、周辺地域の開発や、利便性の向上など、鉄道利用者を増やす取組みの検討が不可欠である。
- ・こうした意見への対応については、改めて県で検討いただきたい。
- ・今後の委員会の進め方について、本日の議事の中で出された意見や課題を、改めて事務局で検討の上、次回の検討委員会において説明いただきたいと考える。その上で、空港へのアクセス整備の方向性について、改めて各委員から意見を頂き、取りまとめを行いたいと考えているがいかがか。

（全委員了承）

（以上）